

2026 年 7 月 31 日

**【SUPER GT 第4戦 /富士スピードウェイ】
大会直前情報**

8月1日(土)、2日(日)の2日間、2026年のSUPER GT第4戦が富士スピードウェイで開催されます。暑さとの戦いにもなるこの1戦に、GT500クラス1台、GT300クラス17台、計18台がヨコハマタイヤを装着して挑みます。

第2戦富士では予選14位から粘り強く戦い10位入賞となった WedsSport BANDOH GR Supra。阪口選手は、「昨年の富士8月大会では、予選トップといういい結果を出せたものの決勝では苦しい戦いになったので、今シーズンは決勝レースを見据えた戦いをすることをテーマにやってきました。その結果として、先日の第2戦富士では決勝のペースには手ごたえを感じたものの、少し決勝の方に軸を振りすぎた感じもありました。昨シーズンと第2戦の内容を踏まえた形で今回のレースに臨みます。予選日は想定以上に路面温度が上がりそうな印象はありますが、限られた条件の中でまずはベストを尽くします」と今回のレースに向けた意気込みを語りました。

GT300クラスでは同じく第2戦で予選6位から大逆転勝利を飾ったリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R が今回も好成績を狙っています。木村偉織選手は、「走って見ないと分からない部分もありますが、まずは予選でしっかりとパフォーマンスを出し、決勝で少しでも前の位置からスタートできるようにと考えています。決勝日は雨の予報ですが、僕自身としては今の車両でヨコハマタイヤのウェットタイヤを履いた経験はないのですが、ジョアオ・パオロ・デ・オリベyra選手はテストでいい手ごたえを得たようなので、そういった意味では雨が降っても楽しみだなと思っています。天気はなるようにしかならないので、まずは自分たちができることをきちんとしていけば、前回の優勝の様にいい結果にたどり着けると信じて、頑張ります。」と意気込みを聞かせてくれました。また、リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R に続いて2番手でゴールしながらも、タイム加算のペナルティを受け正式結果では4位となった seven x seven PORSCHE GT3R EVO も、「僕自身としては、過去にシリーズタイトルを獲れた時にはどんな準備をして臨んだかというのを振り返り、実践してきました。5月の富士戦は、上位フィニッシュではあったもののペナルティで順位を下げってしまうという悔しいレースになったので、その悔しさを晴らすレースにしたいです」と藤波清斗選手が語るように、同じ富士スピードウェイを舞台とした今大会でリベンジを誓っています。

この週末の天気は、公式予選が行われる 1 日(土)は最高気温 35 度超えの猛暑日が予想されている一方、決勝日となる 2 日(日)は午後から天気が崩れる予報となっています。天気の変化にも即座に対応し、柔軟に戦っていく強さも求められる 1 戦となりそうです。灼熱の戦いを制するため、ヨコハマタイヤは全力で挑みます。

